

# Salon

Vol.112 2018年1月 新春号



ホール3F 壁画 ポール・ゴッアマン作「ヴァイオリニスト」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — アルベナ・ダナイローヴァ
- 03 Phoenix Presents — ピアノはいつピアノになったか? 補遺2  
クララ・シューマンとピアノ
- 06 Phoenix Spot — 2018年度主催公演一覧
- 07 Essay de say — 続・時にはブーイングを 寺西 肇

# ウィーン・フィル史上初の女性コンサートマスター アルベナ・ダナイローヴァさん

アルベナ・ダナイローヴァ  
(Albena Danailova/ヴァイオリン)

ブルガリアのソフィアに生まれる。5歳よりヴァイオリンを始め、ロストック音楽大学とハンブルク音楽大学で学ぶ。バイエルン国立歌劇場管、ロンドン・フィルのコンサートマスターを経て、2008年ウィーン国立歌劇場の史上初となる女性コンサートマスターとなり、2011年にウィーン・フィルのコンサートマスターに就任した。これまでに、小澤征爾指揮ウィーン・フィル、ハンブルク北ドイツ放送響、日本ではN響、東響などのオーケストラと共演している。使用楽器は、1727年製のストラディヴァリウス「Ex.ベンヴェヌーティ」(アンゲリカ・プロコップ財団より貸与)。

「アルベナ・ダナイローヴァ ヴァイオリンリサイタル」は、2018年5月19日(土)午後3時開演。ピアノは加藤洋之。入場料4,500円(指定席)、友の会4,050円。学生1,500円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時~17時)。  
[プログラム]ベートーヴェン:ヴァイオリンソナタ第3番 変ホ長調 作品12-3、ブラームス:ヴァイオリンソナタ 第1番 ト長調「雨の歌」作品78、フランク:ヴァイオリンソナタ イ長調、サン=サーンス:序奏と Rond・カプリチオーソ(予定)

世界最高峰のオーケストラのひとつ、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスター、アルベナ・ダナイローヴァが、ザ・フェニックスホールにソロで登場！新緑薫る5月に、関西初リサイタルを開く。ベートーヴェン、ブラームスをはじめ、自ら選んだヴァイオリン・ソロ4曲によるプログラムは、華やかムードで聴き応えもたっぷりだ。2008年にウィーン国立歌劇場管弦楽団初の、そして11年からウィーン・フィル初の、女性コンサートマスターに就任して以来、楽団をまとめて新たな歴史を刻みながら、世界のクラシックファンの期待に応えてきた。併行して室内楽にも積極的に取り組み、訪日演奏も回を重ねている。ノーブルな華やかさをまといながら、特有の軽やかさで叙情を豊かに歌うウィーン・フィルのサウンドが、彼女のソロ演奏ではいったいどのような妙味となって醸し出されるのだろうか。プログラムに寄せる思い、ウィーン・フィルでの今日まで、自身の半生などについて伺った。

(取材・文:原納暢子/音楽ジャーナリスト)

## ヴァイオリン・ソロを、 しなやかに、華やかに！

とても素晴らしいプログラムですね。これだけで「無人島で楽しく暮らせよう」です。心華やくこれらの名曲を選んだ理由やプログラムの意図を教えてください。

選曲についてお褒めいただき、ありがとうございます。ベートーヴェン(1770～1827)とブラームス(1833～97)の組み合わせは、いつも「刺激的」と思っています。「過去」が「未来」の中でどのように経過していくのがわかるからです。古典派の最後にして偉大な作曲家の一人であるベートーヴェンの音楽が、ロマン派の時代にどんな変化を遂げるのか、しかもブラームスという特別な古典的ロマン派の中でどのように発展していくかを知ることができます。「ベートーヴェンなくしてブラームスやワーグナー(1813～83)は存在し得なかった」というたくさんの証拠があるんですよ。

ベートーヴェンのヴァイオリンソナタといえば、第5番「春」や第9番「クロイツェル」などが定番で、演奏に触れる機会も多いので、知人ぞ知る傑作の第3番が聴けるとは、貴重かつ新鮮！しかも、ブラームスのロマンチックな第1番との組み合わせで、とてもワクワクします。

私がベートーヴェンのヴァイオリンソナタ 第3番が好きなのは、「妙趣」「優美さ」そして「強い個性」を持ち合わせた作品だからです。一方、ブラームスのヴァイオリンソナタ 第1番は、その叙情的なメロディーと独特な感覚を覚える哀愁に惹かれます。ブラームスは、初めてのイタリア旅行後に書いた友人への手紙の中で、このソナタについて触れています。それは春も終わりがけた初夏の頃のこと…、そんな季節に自然が与えてくれる感情が、この曲の魅力です。

イタリア旅行の翌1879年夏に曲が完成していますが、その半年ほど前に、シューマン夫妻の末っ子で、可愛がっていた詩人のフェリックス(1854～79)が亡くなっています。微妙な時期でもありますがね。アルベナさんは、ものごころついた頃からどちらの曲も弾いて来られたと思います。忘れられないエピソードや思い出などは？

ベートーヴェンは私の好きな作曲家の一人で、この作品を演奏するのに適した時期やスタイルを見つけるのは難しくはありませんでした。でも、ブラームスには少し時間が必要でした。この作品がいつどのように作曲されたかといった情報を集

め、コンサートを重ねて、自分の解釈に役立ててきました。

サン＝サーンス(1835～1921)のカプリチオーソは、楽団と演奏するときとでは、どういう違いがありますか。例えば、ピアノのニュアンスが単調だと聴き手も気持ちが悪くありません。互いにムードを醸しつつ演奏されてこそ、聴き手も心地よくエキゾチックな世界に浸れる感じです。

オーケストラとピアノのどちらと共演する時でも「自由に演奏すること」が私にとっての挑戦です。そのためには、もちろん素晴らしいオーケストラとピアニストが必要です。

4曲いずれもヴァイオリンとピアノが互角に呼応し、デュオ的に演奏してこそ聴き手の心に響く曲ばかりですね。ベートーヴェンは楽章ごとに役割のバリエーションが柔軟に変化しますし、フランク(1822～90)のヴァイオリンソナタも、ヴァイオリンが朗々と歌えるピアノでないと。ピアニストの加藤洋之さんは、ライナー・キュッヒルさんがコンサートマスターの頃からウィーン・フィルの人たちと室内楽演奏を重ねて早20年。アルベナさんとも共演していますが、彼の演奏の特長や好きなどころなどを聞かせてください。

加藤さんは幅広いレパートリーを持ち、室内楽の経験が豊富なだけでなく、ウィーンで学んだこともあり、コミュニケーションもスムーズ。素晴らしい才能を備えたピアニストで、彼の音楽的経験も好きです。東京のリサイタルで共演していますが、またご一緒できるのが嬉しいです。

アルベナさんは音楽一家に生まれて、幼い頃から音楽一筋と聞いています。子供の頃から「将来は音楽家になる」と決めていたのですか？ また、オーケストラに軸足を置かれた理由は？

私の両親は音楽家で、故郷・ブルガリアのソフィアで音楽学校の試験を受けたのは、ふたりのアドバイスがあったからでした。ヴァイオリンを選んだのは自分自身で、です。ピアノという選択肢もありましたが、なぜか当時の私は望まなかった。卒業後、しばらくして歌劇場のオーケストラで弾き始めたことが、私を新たな音楽的思考の世界へと導いてくれました。この頃まではソリストとして演奏する機会の方が多かったのです。楽団演奏で知り得た音楽的知識や作品の複雑さは、音楽家とし

ての自分の可能性を広げてくれました。

2011年にウィーン・フィルのコンサートマスターに就任して早5年以上過ぎました。ウィーン国立歌劇場からだともうすぐ10年！楽団をまとめる初めての女性として、最初は戸惑うことも多かったと思いますが、今日までどんなことに気をつけて来られましたか。

とても長い道のりで、ウィーン・フィルのメンバーとともに音楽を作り上げる喜びと尊敬の念に満ちていると同時に、日々異なる状況やさまざまな音楽作品へ挑戦する道でもあります。ますますよい演奏をし、リードしていけるように学び続けています。

国外での演奏も多いでしょうし、ベストコンディションを保つための健康法などは？

あまり健康維持については考えないのですが、よく眠るよう心がけています。

来日回数も増えましたね。少しは観光もなさいましたか？心に残っている訪問地や忘れられない出来事などあれば。また、大阪名物のお好み焼きやたこ焼きなどは召し上がりましたか？

奈良と京都を訪れたときは、とても感銘を受けました。今回の大阪公演でも「時間があれば何か見たいな」と、とてもワクワクしています。大阪名物はたこ焼きしか知らないのですが、気に入っていますよ。すごく日本的な食べ物ですし、世界の美味しい食べ物のひとつだと思います。

ひとくちに日本といっても、北海道、東京、九州など、地方によって風土や人の気質などが違います。大阪は人が温かく親切で楽しいことが大好きで、ノリもいいです。なにかメッセージをいただけませんか。みんな、アルベナさんの来阪をととても楽しみにしています。

大阪の皆さまに演奏ができることを、心から嬉しく思っています。ザ・フェニックスホールで、たくさんのクラシック音楽ファンにお会いできるのが本当に楽しみです！

いろいろお答えいただきありがとうございます。本番を楽しみにしています。

こちらこそありがとうございました。



1月19日(金)  
10:00 受付開始  
ザ・フェニックスホール  
友の会優先予約

1月22日(月)  
10:00 受付開始  
イーフェニックス  
E-PHX優先予約

1月23日(火)  
10:00  
一般発売

インターネット予約、ご来店による  
お申込みは1月24日(水)10:00から!

■レクチャーコンサートシリーズ30

協力:フォルテピアノ ヤマトコレクション

2018年7月29日(日)

15:00開演 指定席  
一般¥3,000(友の会価格¥2,700)  
学生¥1,000(限定数)

出演  
玉川裕子(講師:桐朋学園大学准教授)  
宮崎貴子(ピアノ)

伊東信宏 企画・構成 レクチャーコンサート  
ピアノはいつピアノになったか? 補遺2  
「クララ・シューマンとピアノ」

曲目 C・シューマン:ロマンス変奏曲 作品3、 即興曲「ウィーンの思い出」 作品9、 3つのロマンス 作品21  
R・シューマン:幻想小曲集 作品12より「夕べに」、「飛翔」  
ブラームス:6つの小品 作品118より 第2番「間奏曲」イ長調 ほか(予定)

この演奏会は、かつて8回シリーズで行ったレクチャーコンサートのシリーズ『ピアノはいつピアノになったか?』の補遺第二弾です。これまでのラインナップでは取りまきらなかった、けれど重要なピアノ音楽のうちで、今回はクララ・シューマンとその周辺を取り上げるようになりました。クララは女性の演奏家、作曲家として、シューマンやブラームスなどとの関わりを考えると、19世紀音楽史の中心にいた音楽家であったと考えられます。そしてこれまでのシリーズと同じように、今回も、その音楽が作られた時代、作曲家と関わりが深い楽器での演奏が聴けます。今回は、J・B・シュトライヒャーの楽器(1846年製)を用意しました。ウィーンのシュトライヒャーの工房には、これに近いピアノがクララのために置いてあり、彼女はしばしばそこに立ち寄って愛奏したといわれます。そしてお話ししていただくのは、『クララ・シューマン』の訳書もある玉川裕子さんです。クララについて、おそらく今一番面白い話を聞かせてくださる方だと思います。そして、ご自身も女性作曲家作品について連載を継続中のピアニスト、宮崎貴さんが演奏を担当します。

(伊東信宏/大阪大学教授、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドバイザー)

19世紀を生き抜いた音楽家クララ・シューマン

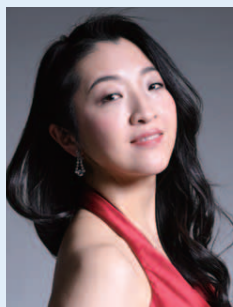
クララ・シューマンは、ローベルト・シューマンやヨハネス・ブラームスの創作と人生にさまざまな形で関わった人物として広く知られています。しかし、自身すぐれた音楽家であったクララが音楽世界にどのような貢献をしたかについては、案外知られていないのではないのでしょうか。1819年に生まれ、1896年に没したクララは、神童としてデビューして以来、晩年までステージに立ち続けました。後半生には後進の指導にもあたっています。いわば19世紀を音楽家として生き抜いたのです。この世紀は音楽文化の担い手が貴族から市民に移った時代で、それに伴い音楽実践の場や音楽家のあり方、さらには音楽についての考え方や聴き方などが大きく転換しました。1830年前後に公の場に登場し、世紀末近くまで音楽家として活動した彼女の足跡をその作曲作品も含めて辿っていくと、19世紀が経験した音楽文化の変遷を体現する、それどころか牽引したひとりの音楽家の姿が浮かび上がってくるでしょう。

(玉川裕子/桐朋学園大学准教授)



玉川裕子(たまがわ・ゆうこ/講師:桐朋学園大学准教授)

近代ドイツおよび日本の音楽文化史(とくに女性の音楽活動史)が専門。主な編著書:『クラシック音楽と女性たち』(青弓社、2015年、編集およびファニー・メンデルスゾーン=ヘンゼル、クララ・ヴィーク=シューマンについての章執筆)、主な著作:『ピアノのある部屋』(『ドイツ文化史への招待—芸術と社会のあいだ』大阪大学出版会、2007)、『女性の音楽実践とジェンダー』(『ドイツ近現代史入門』青木書店、2009)ほか、主な訳書:F・ホフマン『楽器と身体—市民社会における女性の音楽活動』(春秋社、2004)、モニカ・シュテークマン『クララ・シューマン』(春秋社、2014)など。



宮崎貴子(みやざき・たかこ/ピアノ)

東京音楽大学ピアノ演奏家コースおよび同大学大学院を経てドイツ・ハノーファー音楽演劇メディア大学ピアノ科、同大学古楽器科卒業。同大学修士課程フォルテピアノ科修了。在学中、同大学オペラ科で伴奏助手を務める。2013年シューベルト国際コンクールリートデュオ部門第1位(ドイツ・ドルトムント)ほか、国内外のコンクールで多数受賞。フォルテピアノ、女性作曲家作品、リート伴奏を軸に多彩な活動を展開し、色彩感、躍動感溢れるダイナミックな演奏と楽曲に対する深い洞察力は国内外の誌上・紙上で高い評価を得ている。ピアノ音楽誌『ショパン』で「聴いてみませんか?弾いてみませんか?女性作曲家作品あれこれ」連載中。オフィシャルウェブサイト <http://takakomiyazaki.com/>



ヨハン バプティスト  
シュトライヒャー  
Johann Baptist Streicher  
1846年、ウィーン。  
85鍵(AAA~a4)。  
長さ2,460mm、幅1,370mm。  
アングロジャーマンアクション  
テンションバー2本  
協力:フォルテピアノ  
ヤマトコレクション

## 新年のご挨拶

みなさま 輝かしい新年を迎えられたことと存じます。昨年はあいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールにご愛顧を賜り、誠にありがとうございました。当ホールにご来場されます全てのお客様にご満足いただけるホールとして、スタッフ一同、一層の努力をして参りますので、本年もどうぞよろしくお申し込み申し上げます。みなさまにとりまして、この一年が素晴らしい年になりますようご祈念申し上げますとともに、ご来館を心よりお待ちしております。

2018年 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール スタッフ一同

■フェニックス・エヴォリューション・シリーズ84

主催 Office Sonne

2018年6月9日(土)

## 屋野晴香 ピアノリサイタル ～19世紀ウィーンへの旅～

15:00開演 自由席  
一般前売¥3,000(友の会価格¥2,700)  
一般当日¥3,500(友の会価格¥3,150)  
学生前売¥2,000 学生当日¥2,500  
※友の会割引は無制限。  
※学生券は大学生以下対象。

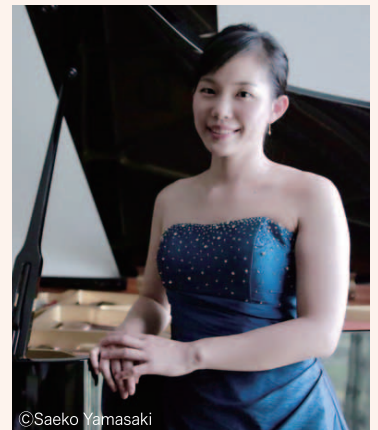
出演 屋野晴香(ピアノ)

曲目 ベートーヴェン:ピアノソナタ 第30番 ホ長調 作品109 シューベルト(リスト 編):ウィーンの夜会 第6番 S.427  
シューマン:ウィーンの謝肉祭の道化 作品26 ショパン:ワルツ 第5番 変イ長調 作品42  
ブラームス:6つの小品 作品118 バルトーク:ピアノソナタ Sz.80

ウィーン国立音楽大学・大学院で研鑽を積んだピアニスト・屋野晴香の帰国後初となる大阪でのソロリサイタル。今回は19世紀ウィーンの情景をテーマに、美しい世界遺産の街である“音楽の都”を、ピアノソロ作品とともに巡ります。オーストリア=ハンガリー帝国の首都であった当時のウィーンは、地理的にも文化的にも、多様な民族性が共存するコスモポリタンの雰囲気を持つ土地でした。特に19世紀末から20世紀にかけては、美術、音楽、演劇をはじめ、自然科学、哲学、思想など、多方面で新しい潮流を生み出し、自由で多様性のある文化の爛熟を迎えます。今回のプログラムは、伝統的で格調高い王宮で開催される舞踏会、街での謝肉祭のパレードの様子、また隣国ハンガリーの民族色強いバルトークの作品などとともに、皆様を時空を超えた旅へお誘いします。東京藝術大学及びウィーン大学大学院で音楽学研究にも取り組む演奏者本人による解説・トーク付。あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールから、19世紀ウィーンへ。是非一緒に出かけませんか？

屋野晴香(やの・はるか/ピアノ)

兵庫県立西宮高等学校音楽科を経て、東京藝術大学音楽学部楽理科卒業。ウィーン国立音楽大学ピアノ室内楽科に留学。同大学及び大学院をともに首席で修了。さらに同大学院で研鑽を積むと同時にウィーン大学修士課程音楽学専攻に在籍し、学術的研究にも積極的に取り組む。ソロ及び室内楽で多数の国際コンクールに優勝・入賞。オーストリア国営放送ORFラジオに出演。ウィーン楽友協会主催リサイタルシリーズに抜擢され、楽友協会ホールでリサイタルを開催。室内楽ではドーラ・シュヴァルツベルク氏、アルティス・カルテットメンバーなど、世界的奏者と共演。オーストリア、ドイツ、イタリアなど、ヨーロッパ各国で演奏活動を行う。これまでにピアノを植田定和、岡田敦子、片岡みどり、アヴェディス・クムジャン、テレーザ・レオポルド、パウル・グルダの各氏に、室内楽をゴットフリード・ポコルニー、ヨハネス・マイスルの各氏に師事。2017年、帰国。全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)ステップ・アドヴァイザーとして日本全国を回り、後進の育成にもあたる。公式サイト:www.haruka-yano.com



©Saeko Yamasaki

## ホール主催・共催・協賛公演チケットのお申し込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

### ■ザ・フェニックスホール友の会優先予約

- ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
- 主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
- 友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申し込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

### ■E-PHX(イー・フェニックス)優先予約

- E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
- チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
- 事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話でのご登録はできません。

### ■一般発売

- 一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
- チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

http://phoenixhall.jp/

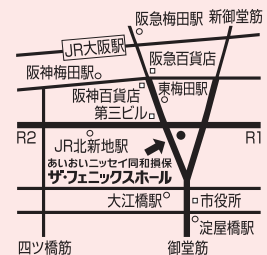
チケットセンターのページからお申込みください

### ■インターネット予約(主催公演のみ)

- ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
- チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
- ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
- 学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
- チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店による  
お申込み

- ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物5階、エレベーターを降りて廊下右手です。



チケットお申込み後のお受け渡し方法 下記①または②のどちらかとなります。

- お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。
- 先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛  
公演

## オーギュスタン・デュメイ & 関西フィルハーモニー管弦楽団 スプリング・スペシャルコンサート

主催 特定非営利活動法人  
関西フィルハーモニー管弦楽団

1/17(水)  
発売

2018年5月16日(水) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥4,000(友の会価格¥3,600) 学生(25歳以下)前売・当日¥2,000

出演 オーギュスタン・デュメイ(指揮およびヴァイオリン)  
関西フィルハーモニー管弦楽団

大阪の街中の“音の聖域”で、音楽監督デュメイ&関西フィルの魅力を感じていただくスプリング・スペシャルコンサート!

曲目

ドヴォルザーク: ロマンズ ヘ短調 作品11  
メンデルスゾーン: 無言歌集より「3つのロマンス」  
ブラームス: 2つのハンガリー舞曲  
ドヴォルザーク: 弦楽セレナーデ ホ長調 作品22

デュメイは前半の《ロマンス&ダンス》で存在感満点のヴァイオリンを響かせ、後半の《セレナーデ》では情熱的な指揮で皆様を魅了します。

あなたの目の前の緊密な空間で奏でられる、極上のアンサンブルを存分にご堪能ください。これぞ小規模ホールならではの醍醐味!



©HIKAWA

協賛  
公演

## 館野 泉ピアノ・リサイタル ～ユヴァル・ゴトリボヴィチ(ヴィオラ)とともに～

主催 キョードー

2/5(月)  
発売

2018年5月21日(月) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥4,500(友の会価格¥4,050)

出演 館野 泉(ピアノ)  
ユヴァル・ゴトリボヴィチ(ヴィオラ)

昨秋、自身81歳の誕生日コンサートで今井信子(ヴァイオリン)とともに世界初演した「ヴィオラソナタ」。その会場には作曲者でヴィオラ奏者のゴトリボヴィチ氏も駆けつけた。激しく躍動感ある音楽は聴衆の心をつかんでほさない! 「スケッチ・オブ・ジャズ」は、ジャズの名演奏家へのオマージュで構成される組曲シリーズ。谷川賢作が館野泉に捧げる第3弾! 館野泉によって命の水脈をたどるようにして取り組まれる左手の楽曲は、静かに燃える愛情に裏打ちされ、聴く人に忘れがたい刻印を残す!

曲目

池辺晋一郎: 一枚の紙と5本のペン  
ソールデル・マグヌッソン: アイスランドの風景  
ユヴァル・ゴトリボヴィチ: ヴィオラソナタ  
光永浩一郎: オルフェウスの涙  
谷川賢作: Sketch of Jazz3 (ヴィオラと左手ピアノのために) 初演



©満田聡

協賛  
公演

## 藤原道山×SINSKE「花 -FlowerS-」

主催 藤原道山×SINSKE「花」大阪公演事務局

発売中

2018年6月22日(金) 19:00開演 指定席  
一般前売¥4,500(友の会価格¥4,050) 一般当日¥5,000(友の会価格¥4,500) ※友の会割引は1会員4枚まで。

出演 藤原道山(尺八)、SINSKE(マリンバ)

「尺八とマリンバだけで、オーケストラのような多彩な響きを生み出せるはず」二人のそんな思いからスタートしたコンサートが、今や全国で売れ続出となり7年目を迎えました。

曲目

チャイコフスキー:  
バレエ組曲「くるみ割り人形」より「花のワルツ」  
瀧 廉太郎: 花  
H・ラカジェ: アマポーラ  
ムソルグスキー: 展覧会の絵  
「桜」ソングメドレー ほか

日本固有の“四季-春夏秋冬-”に様々な色や姿、香りで咲き誇る“花々”をテーマに、クラシック「花のワルツ」をはじめ、日本唱歌やポップス「アマポーラ」などジャンルを超えた名曲の数々に、オリジナル楽曲を交えお届けします。



## 改修工事に伴うホール休館のお知らせ

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールでは、2018年(平成30年)に舞台機構や照明設備、空調設備等の改修工事を施工することとなり、その間を休館させていただくこととなりました。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。なお、ホール事務所、チケットセンターは通常通り営業いたします。(一部来店制限日有り。詳しくはホームページをご覧ください。)

### ◆ 休館期間 ◆

2018年(平成30年)1月25日(木) ~ 2018年(平成30年)4月30日(月・振休)

〈お問合せ先〉あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール TEL:06-6363-0311(代表) (土・日・祝を除く平日9:00~18:00)

# あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 2018年度主催公演速報

2018年度、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールの主催公演のラインナップです。渡邊規久雄アドバイザー監修のもと、人気のティータイムコンサートシリーズ、ギターの祭典Osaka Guitar Summerなど、自信を持ってお勧めできる公演を揃えました。また、世界的なヴィオラ奏者の今井信子、大阪大学文学部教授(音楽学)伊東信宏両アドバイザーによる独自企画にもご注目下さい。2018年度も「室内楽の殿堂」ならではの質の高い舞台を是非ともお楽しみください(公演名などは、今後変更となる場合がございます)。

## 2018年

発売中

■注目アーティストシリーズ  
5月19日(土)

**アルベナ・ダナイローヴァ ヴァイオリンリサイタル**  
共演:加藤洋之(ピアノ)

発売中

■ティータイムコンサートシリーズ  
6月1日(金)

**プラジャーク・クワルテット with 山崎智子(ヴィオラ)**  
〜オール・ドヴォルザーク・プログラム〜  
出演:ヤナ・ヴォナシュコーヴァ(第1ヴァイオリン)、ヴラスティミル・ホレク(第2ヴァイオリン)、ヨセフ・クルソニュ(ヴィオラ)、ミハル・カニユカ(チェロ)、山崎智子(ヴィオラ)

発売中

■ティータイムコンサートシリーズ  
7月13日(金)

**古部賢一(オーボエ) & 鈴木大介(ギター) デュオコンサート**

1/23  
(火) 一般発売

■レクチャーコンサートシリーズ  
7月29日(日)

伊東信宏 企画・構成 レクチャーコンサート  
**ピアノはいつピアノになったか? 補遺2「クララ・シューマンとピアノ」**  
出演:玉川裕子(講師/桐朋学園大学准教授)、宮崎貴子(ピアノ)

3月 発売予定

■Kansai Soloists & Ensembles  
8月26日(日)

Osaka Guitar Summer 2018 <福田進一と仲間たち vol.9>  
**福田進一&クピンスキーギターデュオ ジョイントリサイタル**  
★関連プロジェクト、25日(土)公開マスタークラス、26日(日)フェスティバルコンサート(修了コンサート)を開催します。

発売中

■ティータイムコンサートシリーズ  
9月28日(金)

**阪田知樹 ピアノリサイタル**

発売中

■ティータイムコンサートシリーズ  
10月5日(金)

**デンハーグピアノ五重奏団**  
出演:小川加恵(フォルテピアノ)、高橋未希(ヴァイオリン)、朝吹園子(ヴィオラ)、山本 徹(チェロ)、角谷朋紀(コントラバス)

5月 発売予定

■サンデー・クラシック・サロン  
10月28日(日)

**サンデー・クラシック・サロン**  
出演:長富 彩(ピアノ)、田原綾子(ヴィオラ)、石上真由子(ヴァイオリン)、笹沼 樹(チェロ)

発売中

■ティータイムコンサートシリーズ  
11月9日(金)

**ホルショフスキ・トリオ**  
出演:ジェシー・ミルス(ヴァイオリン)、ラーマン・ラマクリシュナン(チェロ)、相沢吏江子(ピアノ)

7月 発売予定

■世界一周音楽の旅  
12月5日(水)

**アルタン 〜アイルランド伝統音楽の最高峰〜**

## 2019年

発売中

■ティータイムコンサートシリーズ  
1月25日(金)

今井信子 presents  
**原ハーゼルシュタイナー麻理子 ヴィオラリサイタル**  
〜シューマン&シューベルト名曲集〜  
共演:島田彩乃(ピアノ)

発売中

■ティータイムコンサートシリーズ  
2月8日(金)

**藤木大地 カウンターテナーリサイタル**  
共演:松本和将(ピアノ)

9月 発売予定

■アンサンブル・ア・ラ・カルト  
3月2日(土)

今井信子 presents 公演 (調整中)

9月 発売予定

■注目アーティストシリーズ  
3月中旬頃

伊東信宏 企画  
**イシュトヴァン・ヴァルダイ チェロリサイタル** (調整中)

# 続・時にはブーイングを

— 寺西 肇



Keizo Matsui

もう20年以上も前になろうか。某ホールの広報誌に「時にはブーイングを」と題したエッセイを書いたことがある。

「素晴らしい演奏に、称賛の拍手を贈るのは当然。しかし、『有名な演奏家だから』『わざわざ海外から来てくれたから』などという理由だけで手を叩くのは、もうやめませんか。聴衆には、演奏家を育てる義務がある。むやみな拍手喝采は、将来ある若い音楽家を潰してしまうことにも繋がる。良くない演奏には、ブーイングをしてもいい。主体性を持った、厳しい聴衆になりましょう」。ざっと、こんな内容だったと思う。

私の脳裏には、ヨーロッパでの体験があった。例えば、ハンブルクで観たモーツァルト《魔笛》は、斬新な演出に賛否両論。上演中から時に失笑が漏れ、遂にはひそひそ声での議論も。幕が下り、演出家が登場すると、ブーイングと歓声が拮抗する異様な雰囲気。しかし、キャストの登場の際には、「歌は良かった」とばかりに歓声だけが盛り上がった。これに限らず、聴衆が“意思表示”をする場面に、幾度となく遭遇してきた。

「演奏家や聴衆を、馬鹿にしているのか!?!」。エッセイが掲載されると、過激なタイトルもあってか、当時勤めていた新聞社へ名指しの電話が掛かってきたことも。しかし、改めて趣旨を説いてみると、最後には案外、「分かった。自分もこれから、本当に気に入った演奏だけに、拍手をおくりたい」と納得いただけた。後で聞いたが、ホールにも、この手の電話が何本かあったようだ。

「本当? そりゃ、実にいいね!!」。破顔一笑したのは、ピアニストのヴァレリー・アフアナシエフだった。インタビューした折り、話の流れの中で「心のない演奏は良くないが、聴衆の側にも、問題がある。有名演奏家というだけで感謝し、満足してしまう。すると、演奏する側も、自分が世界を支配

したかに思い込んでしまう。聴く側は、何かを要求をすべきなんだ」と語り始めた彼に、思わず、「実は偶然、私も同じ趣旨の文章を…」と、応じたからだ。

“同志”を見つけたと思ってくれたのか、鬼才はさらに饒舌に。「ただ座って、行儀良く聴くだけでなく、“参加”をしなければならない。『良くない』と感じたら、ホールを出ても、トマトを投げても(笑)いい。『著名な指揮者が振った』という事実だけで、『名演だ』と評価する態度を改めるべき。若いから、可愛いから、と『巧いね』などと誉めちやダメだね。常に批判的な姿勢を持つべきなんだ。音楽を、もっと尊敬しなくては」。

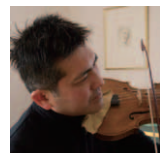
あの時からも、随分、時間が経ったが、残念ながら、あまり状況は変わっていないように思える。技術の巧拙ではなく、演奏へ向かう姿勢の面で、明らかに手抜きをする外来アーティストもいれば、努力すればもっと上手く演れるはずなのに、妥協してしまったのが透けて見える若手奏者も。こんな演奏にも、やはり大きな拍手と歓声。まだ最後の一音の響きが消えていないうちの、フライングの「ブラボー」にも、いまだ出くわす。

そもそも、本当に素晴らしい演奏に触れた時には、すぐに拍手や歓声は出ないものだ。その場にいる聴衆全員が、ある種の連帯感を持って、残響も余さず味わい、一瞬の静寂の後、拍手の漣が起きて、やがて嵐のような大喝采になる。そんな「主張する聴衆」が、もっともっと増えることを私は熱望する。もちろん、実際にブーイングするには、相当な勇気が必要だろうが、共感できない演奏(姿勢)に対して、拍手を控えることはすぐにできる。それが、音楽への真の愛情からとる行為ならば…。

だからあえて、もう一度、書くことにしよう。「時にはブーイングを」と。

寺西 肇(てらにし・はじめ)/音楽ジャーナリスト

1965年、神戸市生まれ。「音楽の友」「レコード芸術」「モーストリークラシック」ほか各誌に寄稿。2005年5月、パッハアルヒーフ・ライブツィヒにおいて、富田 庸・英クイーンズ大学教授と共同で「パッハと偽作」をテーマにパフォーマンスを行うなど、バロックヴァイオリン奏者としてのステージ経験もある。著書に「古楽再入門」、訳書にヤープ・シュレーダー著「パッハ 無伴奏ヴァイオリン作品を弾く〜バロック奏法の視点から」(いずれも春秋社)など。相愛大学音楽学部兼任講師。



あいおいニッセイ同和損保株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー5F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2018年1月  
発行 あいおいニッセイ同和損保  
ザ・フェニックスホール  
編集 諸藤 修一  
デザイン 松井桂三有限会社

